

フリーダム掲示板

安威川ダムからのお知らせ

■安威川ダム工事現場を見学しませんか？

東京オリンピック開催の2020年の完成に向けて、安威川ダムの建設工事を行っています。場所は大門寺の近く。今はダムを造るために超大型重機で土や岩を掘削運搬しています。大門寺高台へ工事現場の見学に来てね。高台には安威川ダム資料館があります。安威川ダムや周辺の自然解説パネル、生きものマグネットを使って、安威川流域の生物多様性を学べるボードもあるよ。

※阪急京都線茨木駅の西口の阪急バス「車作」行で、「大門北」下車が便利です。
 ※大門寺高台は、9時～16時であれば自由に見学できます。
 ※安威川ダム資料館の見学は、下記の安威川ダム建設事務所へ事前予約が必要です。



■情報交流センターに遊びに来てね。

茨木保健所の5階に安威川ダム情報交流センターがあります。昔の安威川の洪水状況や茨木市山間部の大型立体模型が展示してあり、まちの状況がよく分かります。夏休みの勉強に一度来てね。

※阪急京都線茨木駅から北へ徒歩約10分、茨木保健所のあるビルです。
 ※開館は、平日10時～16時です。



遊びに来てね!!

生物ベストショット募集!!

安威川流域で撮影した昆虫や野鳥などの生きもの写真を募集しています。審査・選考の上、秋に開催される「安威川フェスティバル2015」会場に展示予定。優秀作品は、表彰と共に記念品が贈られます。



- 対象 安威川流域の小・中学生
- 締切 平成27年8月31日
- 内容 デジタルカメラやスマートフォンなどで撮影した写真データで、1メガバイト以下のもの。1人1点のみ。住所・氏名・学校名・学年・電話番号、撮影日時と場所、作品のタイトルを記載してメールにて送信。メールの件名を「生物ベストショット」として下記までお送りください。E-mail aigawa-dam-g01@sbox.pref.osaka.lg.jp



※応募作品は、安威川自然データベースに活用するため、著作権は大阪府に帰属することになり、必要に応じて発行物や自然関連の情報ツールなどで使用することを予めご了承ください。

きらめき太陽光パネル 見学とエクセルで環境家計簿講座

- とき 平成27年7月31日(金)午前10時～正午
- ところ 茨木市立生涯学習センター
- 対象 茨木市内小学4～6年生
- 定員 先着25人
- 内容 太陽光パネルの見学(雨天中止)、エクセル版いばらき環境家計簿の使い方を学ぶ
- 費用 100円
- 申込 講座名・住所・氏名・学年・電話番号をハガキ・ファックス・メール・電話で茨木市環境政策課 〒567-8505 茨木市環境政策課 TEL072-620-1644. FAX072-627-0289
- メール e-seisaku@city.ibaraki.lg.jp
- 問合せ 環境を考える市民ネットワークいばらき
- 担当 狩野 (TEL 090-5152-2812)

トピックス

来る10月31日(土)には大門寺の高台で「安威川フェスティバル2015」を開催。さまざまな団体が集結し、安威川を食べる・楽しむ・学ぶ空間を提供します。ご家族やお友達と、ぜひお越しください。次号で詳しい内容をお伝えしますので、乞うご期待を!

大阪府安威川ダム建設事務所ホームページ
<http://www.pref.osaka.lg.jp/aigawa/>

安威川ダムおよび周辺のファンづくり会の情報サイト
<http://www.aigawa.jp/>

安威川



2015
Vol.1

フリーダムとは、英語で自由という意味。自由で楽しい水辺の環境をみんなで守っていきましょう。

あいがわ自然史博物館

世界最大の両生類

井伏鱒二の小説『山椒魚』で知られる本種は、そのイメージどおり、体長が最大で150cmにも達する世界最大の両生類です。ただし、自然環境下では100cmを超える個体はまれで、せいぜい70cm前後。それでもイモリやカエルなどに比べると、はるかに大きな生物です。

私たちの暮らす茨木市では、安威川の上流部に生息しています。近隣の水系でも生息が確認されており、京都府や兵庫県などの河川で標高400～600mくらいを流れる場所にいますが、比較的市街地に近い地域で目撃されることもあるようです。体に比べて目がとても小さく、体全体は柔らかく、ぶにぶにょしたイメージ。全体に不規則な暗褐色の斑紋があります。まれに斑紋のない個体もいます。

食性は動物食で、カエルやエビ・カニ、魚類まで、生きた獲物をその姿から考えられないほど素早く、バクリと捕らえて食べます。夜行性なので、日中は巣穴などに潜んでいます。



オオサンショウウオ
Andrias japonicus

まれに、日中に見られることがありますが、見かけても絶対にさわってはいけません。国の特別天然記念物に指定されているので、特別な資格や許可がなければ触ったり捕らえたりできないのです。また、目の前で動くものを本能的に捉える習性があり、上アゴに鋭い歯を持ち咬む力がとても強いので、子供の指くらいなら簡単に食いちぎってしまいます。

まるで溪流の王者のようなオオサンショウウオですが、前肢・後肢は小さく、緩やかに行動する生物です。安威川では台風や大雨で、下流に流されて迷っている姿を発見された記録があり

安威川上流域に生息しているオオサンショウウオ。私たちは何十年前前から専門家の先生たちと見守ってきました。ただ、残念なことに、近年発見されている個体は成長した大きなものばかりで、幼生や幼体が見つかっていません。人と同じでオオサンショウウオも、大人・こども・子孫と世代をつないでいかなければ途絶えてしまいます。生息流域を注意深く観察し、より良く生息しやすい環境を守っていきたくと思っています。



特集

夏の水辺、あいがわ生きものフリーダム

7~8月、安威川や下音羽川の周辺は生きものたちが活発に動く季節です。野に、山に、そして川に。とくに、夏休みは昆虫や魚たちの姿を数多く観察できる絶好のチャンス。観察ポイントを覚えて里山や川に親しむとともに、観察するときのマナーを守って、気持ちよく安全に自然とふれあうよう心がけましょう。

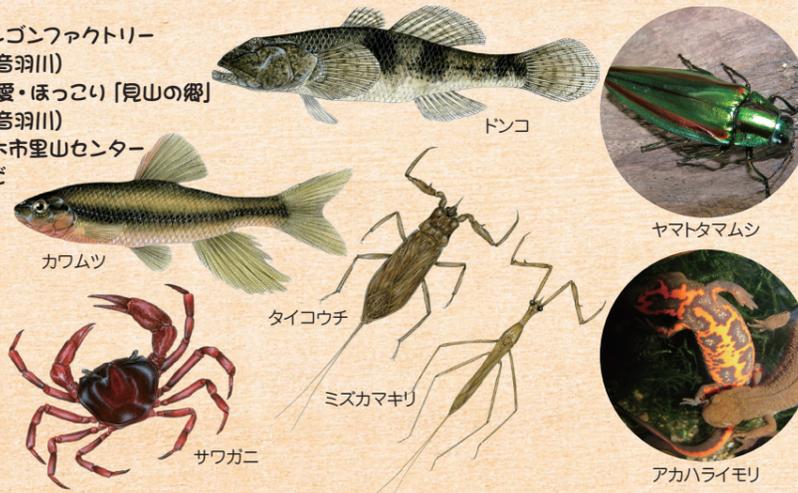


里山の水辺



親水公園や広場が整備された観光スポットは気軽に自然と親しめます。

- ゴンゴンファクトリー(下音羽川)
- de愛・ほっこり「見山の郷」(下音羽川)
- 茨木市里山センターなど



観察マナー

1. 私有地や田畑には入らない。
2. 施設の規則は必ず守ろう。
3. ゴミは必ず持ち帰ろう。

注意点

1. 水分補給と熱中症対策を!!
2. 集中豪雨の危険があるときは中止!!
3. 集団で騒ぐなど迷惑をかけない!!

楽しいけれど注意も必要!!

危険な生物たち

里山や川、林道や自然公園は生きものがいっぱい。でも、ちょっと待ってください。不用意にさわったり、近づいたり、また無防備だったりすると大変なことになる場合も。自然と上手につき合うため、気をつけなければならない代表的な危険生物を知っておきましょう。



▶スズメバチ類

安威川水系はもちろん、市街地にもいるスズメバチは日本で最も危険な昆虫。飛び去って行く方向は、巣がある可能性があるため近づかないように。絶対に手で払ったり騒いだりせず、白いものをかぶって姿勢を低くし、ゆっくりと後ずさりして離れましょう。



▶マダエ

咬まれると特殊な唾液で咬んだ場所に強力に付いて、何日もかけて吸血します。無理にとろうとしたら、頭だけが傷口深くに残って病院で取り出してもらわなければなりません。首の周りにタオルを巻くなどして、肌を出さないようにして散策しましょう。



▶マムシ

毒蛇の代表選手。茨木市の山中にも多くが生息しています。特徴的なメガネ模様と三角形の頭を覚えておき、水辺や湿気のある林道などは注意を。いつも「どこかにマムシが」といった心構えで、長い枝で足下や草むらをはらいながら行動しましょう。



▶ムカデ

茨木市では、山中から平野部の神社などの落ち葉がある湿った場所に広く生息。体長は8から15cmほど。万一咬まれた場合は、冷やすのではなく温めること。その後抗ヒスタミン剤やステロイド成分の入った塗り薬で対処し、念のために病院へ行きましょう。

林道や公園



キャンプ場、神社やお寺の境内は街中では観察できない珍しい生きものと出会えます。

- 権内水路(深山水路)周辺
- 茨木市青少年活動センター
- 忍頂寺スポーツ公園
- 西河原公園周辺(安威川)など



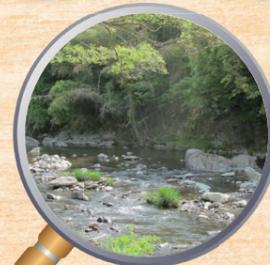
観察マナー

1. 樹の枝や草花を傷つけないように。
2. 神社やお寺は、入っても良い所だけ。
3. 必要以上に生きものを追い回さない。

注意点

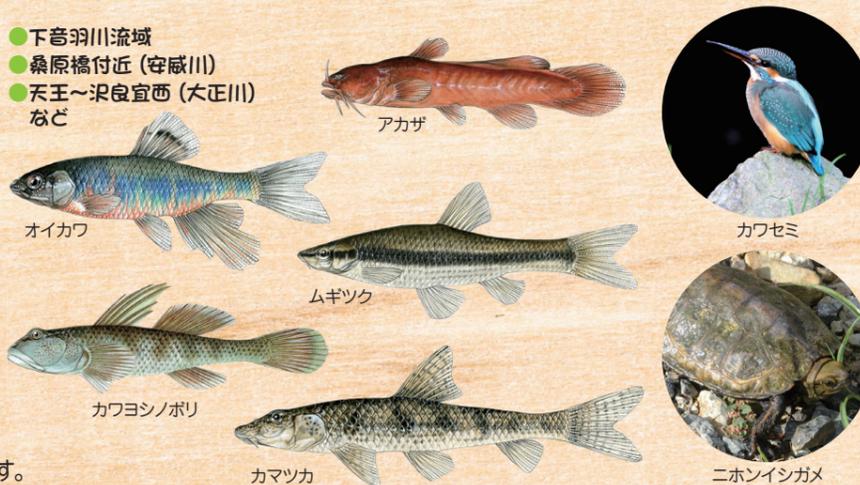
1. 絶対に単独行動をしない!!
2. 深いヤブやガケ、急斜面に近づかない!!
3. 林道は見通しが悪いので、車に注意!!

緩やかな川



安威川流域の浅瀬は水生生物が多く生息し生物多様性が体感できます。

- 下音羽川流域
- 森原橋付近(安威川)
- 天王~沢良宜西(大正川)など



観察マナー

1. 川を汚したりゴミを捨てたりしない。
2. 飼育がむずかしい生物は持ち帰らない。
3. 立ち入っても良い安全な場所だけで。

注意点

1. 雨天や増水時は絶対に入らない!!
2. 川底が見えない深い所には近づかない!!
3. 急な雨の時は迷わず中止する!!



クルビーだより

眞面公園昆虫館 館長 久留飛 克明



モンシロチョウは、とてもなじみが深いチョウで、小学校で飼育されてきた。私の子ども時代といえは、50年も昔になるが、モンシロチョウを探ってくることはたやすいこと、近くのキャベツ畑に行くと、虫食いだらけのキャベツの葉を探すと、簡単にモンシロチョウの幼虫が見つかった。今では、春に小学3年生の担任が決まると、キャベツの苗を植え、モンシロチョウが産卵するのを待って飼育をすると聞いた。そのぐらい、モンシロチョウは以前のように簡単には見つからなくなった。モンシロチョウは、オスが紫外線を吸収するために、紫外線を可視化してみると黒く見えるはずのだが、紫外線を反射するオスがいることが分かり、本来はヨーロッパに生息していたモンシロチョウが、シルクロードを通してアジアに進出し、日本にたどり着くころに、オスの体色が変化したという。昔は、教育の教材として盛んに飼育される昆虫でもあったが、今では小学校で飼育されるチョウは、アゲハチョウに変わってしまった。それが悪いとか良いことだとかいうことではなく、環境の変化に敏感なのは昆虫たちである。私たちの生活が変化して、周りの環境が変わってしまうことによって、身近な昆虫たちも影響を受けている。

自然観察や体験は、決して子供たちだけで行ってはいけません。

必ず大人の人といっしょに、楽しいからといって勝手にひとりだけで行動するのはとても危険です。

帽子や水筒、運動に適した服装で、救急セットも忘れずに!!